【保育実践論文（ソニー幼児教育支援プログラム） 審査講評】
2022年度 最優秀園
学校法人白梅学園 白梅学園大学附属白梅幼稚園

幼児が興味を抱く電車遊びが「科学する心」にどのようにつながるか、「臨場感をかたちづくる」という視点から探求された、きわめて独自性、独創性のある取り組みです。ダンボールや牛乳パックなどの廃材で電車を作るという日常的な遊びから、強度を高めた車輪、パンタグラフや車両連結器の制作、形状や塗装へのこだわり、さらにはリニアモーターカーへの興味へと深めていく事例を、子どもたちの年齢に応じた発達がよく理解できるように「乗って走らせる」、「車両をかたどる」、「交通を拓く」として分類し、細やかで丁寧な記録をもとに考察を深められています。

子どもたちが現実世界と遊びの世界（心的世界）を行き来しながら、自ら物理的な構造に気付き、試行錯誤し、より本物に近づけたいと電車の世界をダイナミックに広げていく過程には、子どもたちの心が動くさまが数多く見られました。特に、自ら電車に乗って走らせたいという身体感覚からはじまる体験にも目を向けている点は、「科学する心」を理解する上で非常に重要です。

保育者は、「臨場感」というひとりひとりの子ども固有の場がどのように形成されるのかに着目し、子どもの思いをしっかりと受け止めながら、それを実現するための教材や環境の工夫、援助をされていることが分かります。子どもの願いを実現するために、電車の知識も高めようとする姿勢には、保育者としてのプロフェッショナルな思いを感じました。

貴園の保育を通じて育まれたものづくりの文化や、子どもたちのやり遂げようという姿は、一朝一夕で育つものではなく、園全体で取り組まれた成果の表れです。これからも「科学する心」を育てる保育実践とその本質を捉える研究を積み重ね、優れた実践を広く他園に発信していただけることを期待しています。